

会議名称	墨田区基本計画等有識者懇談会（第2回）
開催日時	平成27年10月15日（木）午後6時30分から午後8時30分まで
開催場所	区役所庁議室
出席者数	9人 【外部有識者】 有田智一、奥山雅之、久保田福美、羽生冬佳 藤林慶子、村上正浩 【区】 高野祐次（副区長）、関口芳正（企画経営室長） 岩瀬均（企画経営室参事）
傍聴者数	9人
議題	1 副区長あいさつ 2 意見交換 （1）墨田区基本計画の施策体系について （2）まち・ひと・しごと創生法に基づく「墨田区総合戦略」の骨子について 3 その他、連絡事項等
配付資料	1 出席者名簿 2 墨田区基本計画施策体系比較表 3 まち・ひと・しごと創生法に基づく「墨田区総合戦略」（骨子案） 4 墨田区人口ビジョン 将来人口推計 5 墨田区基本計画に係る区民アンケート調査結果（回答者の属性別） 6 現基本計画の指標実績（所管課データ分）
会議概要	1 開会 2 副区長あいさつ 副区長から、懇談会開催に当たってのあいさつを行った。 3 委員の紹介 第1回懇談会に欠席した委員の紹介を行った。 4 墨田区基本計画の施策体系について 企画経営室参事から、資料「墨田区基本計画施策体系比較表」を用いて、施策体系案について説明を行った後、意見交換を行った 【主な意見等】 （1）基本目標Ⅰ ・ 観光は全ての基本目標に関係するものであり、「観光は120『すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる』のみ」という考え方は改めた方がよい。ただ、「観光」を横串（リーディングプロジェクト）と

して、施策に観光というフレーズを使うということであれば、象徴的なところとして120に置くといく方法は考えられる。従って、（墨田区基本計画調査特別委員会で委員から、「120に『北斎』というフレーズを明記すべき」という意見があったことについては、）「北斎」や「東京スカイツリー」というすみだの観光を特徴づけるフレーズは、施策で個別に掲げる必要はないだろう。

- ・ 「すみだらしさ」は基本目標Ⅰだけに収まるものではないため、「すみだらしさの息づくまち」という表現に違和感がある。基本目標Ⅰは他に収められないものを置いているだけのように見えて、内容が非常に弱く感じる。

（2）基本目標Ⅲ

- ・ すみだらしさを政策・施策の随所に見せるべきなので、313「『ものづくりのまち すみだ』をプロモーションする」のような表現は良い。一方、312「新規参入を促進し、異分野との連携・融合を図る」はどこの自治体でも言えるような文言になっているので、ものづくりのまちとして、「次代のものづくりを育成する」くらいの大上段に立った政策・施策を掲げて良いのではないか。
- ・ これからの産業のキーワードは、「製造業のサービス化」とローカルからグローバルに広がる「グローカル」であるので、そういった視点を取り入れたら良いのではないか。
- ・ 施策体系に不足しているのは「国際色」である。世界と直接やりとりをするような、すみだのものづくりが世界に広がる方法を考えていくべきである。
- ・ 331「誰もが能力を発揮できるよう就労支援を充実させる」については、「充実させる」という言葉では弱く、もう少し表現方法を工夫した方が良い。
- ・ 東京スカイツリーの開業をきっかけに、すみだで新しい「コト」を起こそうという考えを持った人たちのつながりができ始めていることを受け、そのような人たちを応援したり、PRしたりする施策が重要である。

（3）基本目標Ⅳ

- ・ 政策・施策にレジリエンス（災害が起こってもすぐに回復できるまち）を踏まえた視点があっても良いのではないか。また、複合災害への対応や避難拠点についても検討をしてみたらどうか。
- ・ 412「さまざまな災害に対する地域の防災行動力を高める」、413「犯罪を抑止する地域の防犯行動力」に掲げている「行動力」は、人の行動力となれば想像がつくが、「地域の行動力」のイメージがしづらい。地域と行動力はつながらないのではないか。
- ・ （墨田区基本計画調査特別委員会で委員から、「基本目標Ⅴに外国人施策を盛り込むべき」という指摘があったことについて、）これは410「災害や犯罪から身を守る、安全・安心なまちとしくみをつくる」も同様のことが言える。

障害者や高齢者と同じように、災害時の要支援者として外国人がいると捉えた方が良い。

- ・ 4 2 2 「地域福祉サービス利用者の権利を守り、質と量の向上を図る」は、権利を守ることと、質と量を向上することは全く別の話であることから、どちらを主とするか検討すべきである。
- ・ 「地域福祉サービス」とは、もっと大きな概念を持つものであり、4 2 2 で用いるフレーズとして地域福祉サービスという言葉が適しているのかは検討すべきである。
- ・ 4 2 3 「生活困窮者を支え、自立を促す」に「生活困窮者」というフレーズが使われているが、生活困窮者自立支援法の対象者だけが当施策の対象となる印象を受け、現計画（「困った人」と表現）よりも限定されてしまったように見える。
- ・ （墨田区基本計画調査特別委員会で委員から、「介護保険法改正（予防給付が地域支援事業に移行）に伴う施策の一本出しをすべき」という提案があったことについて、）介護は保険者により考えが全く異なるので、墨田区が施策として強く打ち出すというのであれば、面白い取組と言える。
- ・ 地域包括ケアは、障害者や子どもが含まれるので、障害者政策や高齢者政策と切り離して一つにまとめるなど、施策体系の土台から崩していくという考え方がある。
- ・ 良いまちが良い学校をつくり、また、その逆も同様である。区立小学校では、東京スカイツリーを通じて「世界一の素晴らしさ」を教えていて、すみだの「東京スカイツリー学習」はとても良いものだと評価している。このほか、すみだには江戸っ子1号のような素晴らしい事例があり、子ども達には、「このまちだからできること」を学習させたら良いのではないか。

5 まち・ひと・しごと創生法に基づく「墨田区総合戦略」の骨子について

企画経営室参事から、資料「まち・ひと・しごと創生法に基づく「墨田区総合戦略」（骨子案）」及び「墨田区人口ビジョン 将来人口推計」を用いて説明を行った後、意見交換を行った。

【主な意見等】

(1) 考え方について

- ・ 基本目標Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの対象は誰か。すみだで働きたいからすみだに住むということには必ずイコールでつながるものではないので、基本目標ⅠとⅡは同時に成立しないのではないか。
- ・ 基本目標Ⅱ「働きたいまちの実現」は、企業者側へのアプローチなのか、働く側へのアプローチなのかが不明である。
- ・ 結婚はせずに仕事に打ち込んでいきたいと考える層も割合として増加する可

能性はある。様々な考え方を持つ人がいるなかで、どの施策をどのように進めていくか具体的に検討していかないと、全てが中途半端になる。

(2) 人口

- ・ 都市部は人口ビジョン・総合戦略を策定するのは難しい。地方はまちに仕事を作れば人口増加につながるが、都市部では都心の発展に人口増減は影響を受けるうえ、仮に墨田区に仕事が増えたとしても、それが人口増加につながるというわけではない。
- ・ 人口が30万人になるためには、住宅をさらに整備する必要がある、その一方で既存の工場が押し出されることになる。つまり、墨田区では、人口が増加すれば仕事は減少する。こういった点を踏まえ、人口と仕事のバランスを、墨田区特有の戦略として組み立てるべきではないか。
- ・ 人口を積極的に増やすという強気なビジョンを持つべきではないか。基本計画の施策体系は積極的に見えるが、それに比べて骨子の記載が弱いように感じる。
- ・ 資料で示されたように人口が増加すると、墨田区の人口密度は豊島区（人口密度が日本で最も高い自治体）並みになる。ビルだらけのまちになるだろうが、それでもこの人口を目指す必要性があるのか疑問である。
- ・ ただ単に人の流入が減るということではなく、（仮に流出超過だとしても）流入・流出がアクティブに行われて活性化しているということが大切である。今の資料だと、単純に流入が減っているように見える。

(3) キャッチフレーズ「夢と希望がかなう」

- ・ 「夢と希望がかなう」には違和感があり、どちらかと言えば「夢と希望を育む」という表現にして、安心して夢や希望を育む土壌があるまちということを打ち出した方が適切なのではないか。

6 その他

企画経営室参事から、墨田区基本計画調査特別委員会での資料要求に基づいて作成した「墨田区基本計画に係る区民アンケート調査結果（回答者の属性別）」及び「現基本計画の指標実績（所管課データ分）」について説明を行った。